

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：永島・澤村]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

令和2年度 病害虫発生予察情報 特殊報第3号

令和2年12月4日

島根県病害虫防除所

キク退緑斑紋ウイルスによる病害の本県での初発生が確認されたので特殊報を発表します。

- 1 病害虫名 キクわい化病
- 2 病原名 キク退緑斑紋ウイルス (*Chrysanthemum chlorotic mottle viroid: CChMVd*)
- 3 作物名 キク
- 4 発生場所 県東部
- 5 発生経過

令和2年8月下旬、県東部の露地栽培のキク（スプレーギク）において、中位葉～上位葉に退緑、えそ、奇形等の症状が発生し、一部の株では葉枯れが確認された（図1～8）。農林水産省神戸植物防疫所に診断を依頼した結果、キク退緑斑紋ウイルス (*Chrysanthemum chlorotic mottle viroid: CChMVd*) が検出され、本県未発生の病原ウイルスであることが確認された。なお、発生株はCChMVd単独感染であった。

本ウイルスは、昭和42年に米国で初めてキクで感染が確認された。国内では平成15年に秋田県で初めて確認され、その後、京都府\*、大阪府\*、愛知県\*、広島県\*、滋賀県\*及び福岡県\*等で確認されている。

## 6 病徴

単独感染の場合は病徴を示さないことが多いが、小ギクやスプレーギクの一部品種で病徴が認められた事例がある。これまでの症例では、葉脈沿いや株全体の退緑症状、下位葉が明瞭に退緑、赤変し、次第に上位葉へと進展し、その後枯れ上がるという事例がある。なお、今回の発生ほ場では葉の退緑輪紋症状（図7、8）が確認されたが、本ウイルスとの関連は明らかになっていない。本ウイルスによる病徴は、品種や他のウイルスやウイルスとの重複感染により大きく異なるとされている。また、病徴は高温、高照度条件で現れやすい。

## 7 伝染経路及び宿主範囲

伝染は接触（汁液）伝染のみで、土壌伝染、虫媒伝染はしないと報告されている。キクとチョウセンノギクが宿主となる。

## 8 防除対策

- 1) 無病の苗又は挿し穂を使用する。
- 2) 葉のこすれあいや、罹病株を作業したハサミ等の刃物に付着した汁液により感染するので、管理作業時の接触伝染、刃物を介した伝染を防ぐ。
- 3) 罹病株を抜き取り、ほ場外に持ち出して適切に処分する。

## 9 その他

疑わしい症状が発生している場合は、島根県病害虫防除所（農業技術センター 資源環境研究部 病虫科：0853-22-6772）に連絡する。



図1 上位葉での病徴



図2 葉枯れ



図3 葉脈に沿った退緑



図4 円形のえそ



図5 葉脈に沿ったえそ



図6 奇形



図7 退緑輪紋



図8 退緑輪紋（葉裏から光照射して撮影）

\* 農業総覧 花卉病害虫診断防除編